

肺移植後患者における人生の質と運動能力

佐々木 誠

秋田大学医学部保健学科学療法学専攻

背景：肺移植後患者の人生の質(以下, QOL)は, 一般の人と同様であると報告されている。しかし, 先行研究では運動能力が正常値の 30~40%に減少していることが明らかにされている。本研究の目的は, 肺移植後患者において QOL がよいとする自己報告と運動能力の減少との解離について検討し, 説明し得る関連を明らかにし, その結果を対照群と比較することである。

方法：両側肺移植後 208±67 日経過した患者(以下, LTX 群)27 名(男性 16 名, 女性 11 名; 年齢 46±10 歳, BMI 24±3 kg/m², FEV₁%75±27%)と対照群 30 名(男性 17 名, 女性 13 名; 年齢 47±15 歳, BMI 26±4 kg/m², FEV₁%103±15%)を対象に, 心肺運動負荷試験を実施した。また, ドイツの標準化された「慢性疾患のための QOL プロフィール」自己段階づけ質問票を聴取した。

結果：運動に関係する客観的な値[最大酸素摂取量: LTX 群 15.1±1.8 ml/min/kg, 対照群 34.5±9.1 ml/min/kg (p<0.01), 最大仕事量: LTX 群 1.0±0.2 W/kg, 対照群 2.4±1.0 W/kg (p<0.01), パーセント予測仕事量: LTX 群 44±12%, 対照群 115±33% (p<0.01)]は, 有意な差が認められた。LTX 群における身体的, 心理的, 社会的領域の主観的な QOL の段階づけは, 対照群や一般の人(n=1,143)の値と差がなかった。身体的領域の QOL は最大運動能力と有意に関連していた[LTX 群 r=0.44 (p<0.05), 対照群 r=0.37 (p<0.05)]。

結論：肺移植後 7 か月経過した患者は身体的, 社会的, 心理的 QOL が健常対照群と同程度によいことが明らかとなった。しかし, 最大運動能力と最大酸素摂取量は顕著に減少していた。日常活動の範囲内の身体能力を改善するためには, 肺移植後に患者に対して運動プログラムを推奨するべきである。

Tegtbur U, et al : Lebensqualität und körperliche Leistungsfähigkeit bei Patienten nach Lungentransplantation. Pneumologie 58 : 72-78, 2004

リハビリテーション病棟の高齢者の活動水準に関する観察調査

進藤伸一

秋田大学医学部保健学科学療法学専攻

目的：リハビリテーション病棟に入院している高齢者の活動水準を明らかにするために, 本調査を実施した。

対象：本調査に協力したのは 6 名の入院患者で, ①認知症(痴呆)がなくインフォームドコンセントが取れ, ② PT, OT のいずれかの治療を受けており, ③自立して移動が可能(歩行補助具の使用は問わない)な患者である。平均年齢は 80 歳であった。

方法：平日の活動時間帯である 7:30~19:30 の 12 時間(720 分)を 3 日連続して観察し, 活動カテゴリー(他の研究で用いられた)ごとに時間を記録した。そして, 活動カテゴリー別の 3 日間の平均時間と観察時間(720 分)に占めるその比率から, 活動水準について検討した。

結果と考察：時間の多い活動カテゴリーから順に挙げると, 「どのような活動も行っていない」45.3%, 「ベッドで眠っているか休んでいる」18.4%, 食事, 整容などの「基礎的ケア」16.0%, 読書などの「自発的余暇活動」6.0%, 「訪問者との交流」4.3%であった。身体活動は, これらより少なく, トイレなどの「不可欠な身体活動」3.4%, 歩行や運動などの「自発的な身体活動」は 0.4%にすぎなかった。このように, リハビリテーション病棟での高齢者の活動水準は全般的に低く, リハビリテーション上有益な身体活動はほとんど行われていなかった。以上の結果は, 他の調査とほぼ類似していた。ただ, 脳卒中病棟で行った他の調査では, 今回の結果より活動水準が高かったが, これは治療ガイドラインにしたがって, 多職種チームがクリティカル・パスに基づいたアプローチを行っていたためであった。

結論：方法上の制約から, 今回の結果をリハビリテーション病棟入院中の高齢者全体に拡大することはできない。しかし, リハビリテーション病棟での高齢者の活動水準が低い原因の解明と, 治療ガイドラインや治療標準の必要性が明らかとなった。

Patterson F, et al : An investigation into activity levels of older people on a rehabilitation ward : an observational study. Physiotherapy 91 : 28-34, 2005